

せい
聖

さん
餐

しき
式

さん
参
にゆう
入

一同立つ。

ここで聖歌を用いてもよい。また参入唱または聖語（46 ページ以下）を教会暦に応じてまたは自由に用いてもよい。

司祭 ^{しゅ}主イエス・キリストよ、おいでください

会衆 ^{でし}弟子たち ^{なか}の中に ^た立ち、^{ふっかつ}復活 ^{すがた}のみ姿 ^{あらわ}を現されたように、わたしたちのうちにも ^{のぞ}お臨みください

ここで司祭は次の祈りをする。

その前に懺悔と赦しの祈り（19 ページおよび 36 ページ）を用いてもよい。このときは、式中の懺悔（170 ページ）を用いない。

^{ぜんのう}全能の神よ、^{かみ}すべての ^{こころ}心は ^{しゅ}主に ^{あらわ}現れ、^{のぞ}すべての ^{しゅ}望みは ^{しゅ}主に ^し知られ、^{ひみつ}どのような ^{まへ}秘密も ^{かく}み前に ^{かく}隠れることはありません。
どうか ^{せいれい}聖霊によってわたしたちの ^{こころ}心を ^{きよ}清め、^{しゅ}まことに ^{しゅ}主を ^{あい}愛して ^なみ名の ^{えいこう}栄光を ^{あらわ}現すことができますように、^{しゅ}主イエス・キリストによって ^{ねが}お願いいたします。アーメン

次の[I]、[II]、[III]のうちの一つを歌いまたは唱える。

[I]

司祭 ^{えいこう} 栄光は、^{ちち} 父と^こ 子と^{せいれい} 聖霊に

会衆 ^{はじ} 初めのように、^{いま} 今も、^{よよ} 世々に^{かぎ} 限りなく アーメン

[II]

各節を 3 回ずつ繰り返してもよい。

^{しゅ} 主よ、^{あわ} 憐れみをお^{あた} 与えください

キリストよ、^{あわ} 憐れみをお^{あた} 与えください

^{しゅ} 主よ、^{あわ} 憐れみをお^{あた} 与えください

または

キリエ・エレイソン

キリストエ・エレイソン

キリエ・エレイソン

[III]

司祭 ^{うた} ほめ歌え、^{ぜんのう} 全能の^{ちち} 父なる^{かみ} 神を

会衆 ^{うた} ほめ歌え、^こ み子、^{しゅ} 主イエス・キリストを

司祭 ^{うた} ほめ歌え、わたしたちのうちに^{やど} 宿られる^{せいれい} 聖霊を

会衆 ^{いま} 今も、^{よよ} 世々に^{かぎ} 限りなく アーメン

主日およびその他の祝日には、一同次の歌をうたいまたは唱える。ただし、降臨節、および大斎節の主日には用いない。

だいえいこう うた
大栄光の歌

いと高きところには神に栄光、地にはみ心にかなう人びと
に平和がありますように。

ぜんのおう ちち てん おう しゅ かみ しゅ おが しゅ かんしゃ しゅ
全能の父、天の王、主なる神よ、主を拝み、主に感謝し、主
の栄光をほめたたえます。

ちち ひと ご しゅ よ つみ のぞ かみ こ ひつじ
父の独り子・主イエス・キリスト、世の罪を除く神の小羊・
主なる神よ、わたしたちに憐れみをお与えください。父の右
に座しておられる主よ、わたしたちの祈りを受け入れてく
ださい。

イエス・キリストよ、主のみ聖、主のみ王、主のみ聖霊と
ともに、父なる神の栄光のうちに、最も高くおられます

アーメン

とく とう
特 禱

司祭 主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司祭 祈りましょう

ここで当日の特禱を用いる。

み こと ば 葉
言

ここで司祭は、46 ページ以下の聖語を教会暦に応じて、また
は自由に選んで用いてもよい。

司祭 ^{せいしよ} 聖書 ^{ことば} のみ言葉 ^き を聞きましょう

会衆は着席する。

旧約聖書 ^{きゆうやくせいしよ}

朗読者または司式者は旧約聖書を朗読してもよい。その前に次のように言う。「旧約聖書は——書第——章——節から」。

朗読後、「旧約聖書を終わります」と言う。旧約聖書以外のものを読むときは「旧約聖書」をとる。

司祭は旧約聖書、使徒書、福音書の後に「いま聞いたみ言葉について黙想しましょう」と言って黙想の時をおいてもよい。

使徒書の前にその日にふさわしい詩編を用いてもよい。

使徒書 ^{しと} ^{しよ}

朗読者または司式者は使徒書を歌いあるいは朗読する。その前に次のように言う。「使徒書は——書第——章——節から」。

朗読後、「使徒書を終わります」と言う。

次に一同立つ。ここで昇階唱または聖歌を用いてもよい。

復活日から 8 日間は復活の歌を用いてもよい。

福音書 ^{ふく} ^{いん} ^{しよ}

執事または司祭は、次の唱和の後、福音書を歌いあるいは朗読する。一同福音書の方を向く。

朗読者 ^{しゅ} ^{みな} 主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

朗読者 聖せい——による福音書ふくいんしょだい第しょう——章しょう——節せつ以下いかに記しるさ
れた主しゅイエス・キリストの福音ふくいん、主しゅに栄光えいこう

会衆 主しゅに栄光えいこうがありますように

福音の朗読が終わったとき、次のように歌いまたは唱える。

朗読者 主しゅに感謝かんしゃ

会衆 主しゅに感謝かんしゃします

* 説せつ 教きょう

説教の前または後に、司祭はその週の祝日、斎日および聖餐
を行う日に関する告示、教区主教の教示、結婚の予告その他
の告示を告げる。

ニケヤ信しん 経きょう

主日とその他の祝日には、一同立って歌いまたは唱える。

ニケヤ信経に代えて使徒信経（30 ページ）を用いてもよい。

わたしたちは、唯一ゆいいつの神かみ、全能ぜんのうの父ちち、天地てんちとすべて見みえる
ものと見えないものの造つくり主ぬしを信しんじます。

また、世々よよの先さきに父ちちから生まれた独うり子ひと・主ごイエス・キリ
ストを信しんじます。主しゅは神かみよりの神かみ、光ひかりよりの光ひかり、まこと
の神かみよりのまことかみの神つく、造うられず、生まれ、父ちちと一いっ体たいです。

すべてのものは主しゅによって造つくられました。主しゅはわたしたち

人類のため、またわたしたちを救うために天から降り、聖霊
によっておとめマリヤから肉体を受け、人となり、ポンテ
オ・ピラトのもとで、わたしたちのために十字架につけら
れ、苦しみを受け、死んで葬られ、聖書にあるとおりの三日目
によみがえり、天に昇り、父の右に座しておられます。ま
た、生きている人と死んだ人とを審くため、栄光のうちに
再び来られます。その国は終わることがありません。

また、主なる聖霊を信じます。聖霊は命の与え主、父と子
から出られ、父と子とともに拝みあがめられ、預言者によ
って語られた主です。また、使徒たちからの唯一の聖なる
公会を信じます。罪の赦しのための唯一の洗礼を信認し、
死者のよみがえりと来世の命を待ち望みます アーメン

だい とう
代 禱

一同立つ。

執事は次のように言う。司祭または会衆の代表者が言ってもよい。

執事 すくぬし 救い主イエス・キリストのみ言葉とみ業に頼り、全
こうかい 公会のため、また世界のために祈りましょう。

ここで「——のために黙禱しましょう」と言って、感謝と代禱の題目をあげ、会衆に黙禱を求めてもよい。また会衆に感謝と代禱の題目を求めてもよい。黙禱に代えて祈禱書中の適当な祈りを用いてもよい。

「ことに」のあとに適当な名前をあげてもよい。

執事 かみ しゅ こうかい 神よ、主の公会（ことに——）を強めて、み子のみ業
おこな を行わせてください。すべての聖職と信徒（こと
しゅきょう みちび な よ もの にわたしたちの主 教——）を導き、み名を呼ぶ者を
しゅ しんり あい いっち ひびしゅ えいこう 主の真理と愛のうちに一致させ、日々主の栄光をこ
よ あらわ もの の世に現す者とならせてください

会衆 しゅ き 主よ、お聞きください

各応唱の後に、しばらく黙禱してよい。

執事 かみ 神よ、すべての国（ことに——）の人びとに知恵を与
せいき へいわ みち みちび たが そんけい えて正義と平和の道に導いてください。互いに尊敬
こころ あた ひと さいわ もと する心を与え、ともにすべての人の幸いを求めさ
せてください

会衆 ^{しゅ}主よ、^きお聞きください

執事 ^{かみ}神よ、わたしたちと^{かぞく}家族、すべての^{ゆうじん}友人と^{とな}隣り人（こ
とに——）に^{めぐ}恵みを与え、ともに^{あた}主を知り、^{しゅ}主に^{しゅ}仕え、
^{たが}互いに^{あい}愛することができるようにしてください

会衆 ^{しゅ}主よ、^きお聞きください

執事 ^{かみ}神よ、^{なや}悩む人、^{ひと}悲しむ人、^{かな}病氣の人、^{ひと}貧しい人、そ
の^た他^{わざわ}災いの中にある^な人^{ひと}びと（ことに——）を^{かえり}顧み、
^{ちから}み力を^{あた}与えて、^{ゆうき}勇氣と^{きぼう}希望を増し^ま加え、^{くわ}主の^{しゅ}救いの
^{よろこ}喜びに^{みちび}導いてください

会衆 ^{しゅ}主よ、^きお聞きください

執事 ^{かみ}神よ、^よ世を^さ去ったすべての^{ひと}人（ことに——）を^{かえり}顧み、
^{かれ}彼らの上に^{うえ}主の^{しゅ}愛の^{あい}み^{むね}旨を^な成し^と遂げてください。わ
たしたちは、^{よよ}世々に^{しゅ}主の^{あかしびと}証人たちに^{あた}与えられた^{しゅ}主の
^{めぐ}恵みのゆえに、^なみ名を^なたたえます。どうか、わたし
たちも、^{かれ}彼らとの^{まじ}交わりを^{たも}保ち、ともに^{くに}み国の^{えいこう}栄光に
あずからせてください

一同 ^{しゅ}主よ、これらのことを^こみ子イエス・キリストによっ
て^{ねが}お願いいたします アーメン

懺 悔

式の初めに「懺悔と赦しの祈り」を用いたときはこの懺悔を用いない。

執事または司祭 ^{こころ}み ^{そな}心 ^{もの}に ^{ささ}かな ^{みずか}う ^{ささ}供 ^ええ ^{ささ}物 ^をを ^{ささ}献 ^げげ、^{また}また ^{みずか}自 ^らら ^をを ^{ささ}献 ^げげて、^{しゅ}主 ^{さだ}が ^{せいてん}定 ^めめ ^らら ^れれた ^{この}この ^{おこな}聖 ^{いん}奠 ^をを ^{おこな}行 ^うう ^たた ^めめに、^とと ^{つみ}も ^{さんげ}に ^{さんげ}罪 ^をを ^{さんげ}懺 ^悔悔 ^しし ^まま ^しし ^よう

共同懺悔（295 ページ）を用いるときはここです。

会衆はひざまずく。

司祭 ^{ちち}父 ^こと ^{せいれい}子 ^{ぜんのう}と ^{かみ}聖 ^{てん}霊 ^{かいしゅう}なる ^{きょう}全 ^{かみ}能 ^のの ^{かみ}神、^{および}お ^{てん}よ ^{かいしゅう}び ^{きょう}天 ^のの ^{かいしゅう}会 ^{きょう}衆 ^とと ^{きょう}兄 ^だ弟 ^{まへ}の ^{おも}前 ^{こと}に、^{おこな}わ ^{おこな}た ^{おこな}し ^{おこな}は、^{おも}わ ^{こと}た ^{おこな}し ^{おこな}は、^{おこな}思 ^{こと}い ^{おこな}と、^{おこな}言 ^{おこな}葉 ^{おこな}と、^{おこな}行 ^{おこな}い ^{おこな}に ^{おこな}よ ^{おこな}っ ^てて、^{おお}多 ^{つみ}く ^{おお}の ^{おお}罪 ^{おお}を ^{おお}犯 ^{おお}し ^{おお}て ^{おお}い ^{おお}る ^{おお}こ ^{おお}と ^{おお}を ^{おお}懺 ^{おお}悔 ^{おお}し ^{おお}ま ^{おお}す ^{おお}。 ^{おお}神 ^{おお}よ、
^{おお}ど ^{おお}う ^{おお}か ^{おお}わ ^{おお}た ^{おお}し ^{おお}を ^{おお}憐 ^{おお}れ ^{おお}み ^{おお}赦 ^{おお}し ^{おお}て ^{おお}く ^{おお}だ ^{おお}さ ^{おお}い ^{おお}。 ^{おお}兄 ^{おお}弟 ^{おお}よ、
^{おお}わ ^{おお}た ^{おお}し ^{おお}の ^{おお}た ^{おお}め ^{おお}に ^{おお}主 ^{おお}なる ^{おお}神 ^{おお}に ^{おお}祈 ^{おお}っ ^てて ^{おお}く ^{おお}だ ^{おお}さ ^{おお}い

会衆 ^{ぜんのう}全 ^{かみ}能 ^のの ^{かみ}神 ^{あわ}が ^{あわ}あ ^{あわ}な ^{あわ}た ^{あわ}を ^{あわ}憐 ^{あわ}れ ^{あわ}み、^{あわ}す ^{あわ}べ ^{あわ}て ^{あわ}の ^{あわ}罪 ^{あわ}を ^{あわ}赦 ^{あわ}し ^{あわ}て ^{あわ}く ^{あわ}だ ^{あわ}さ ^{あわ}い ^{あわ}ま ^{あわ}す ^{あわ}よ ^{あわ}う ^{あわ}に

司祭 アーメン

会衆 ^{ちち}父 ^こと ^{せいれい}子 ^{ぜんのう}と ^{かみ}聖 ^{てん}霊 ^{かいしゅう}なる ^{しふ}全 ^{かみ}能 ^のの ^{かみ}神、^{および}お ^{てん}よ ^{かいしゅう}び ^{しふ}天 ^のの ^{かいしゅう}会 ^{しふ}衆 ^とと ^{しふ}師 ^{しふ}父 ^のの ^{しふ}前 ^{まへ}に、^{おこな}わ ^{おこな}た ^{おこな}し ^{おこな}は、^{おこな}わ ^{おこな}た ^{おこな}し ^{おこな}は、^{おこな}思 ^{こと}い ^{おこな}と、^{おこな}言 ^{おこな}葉 ^{おこな}と、^{おこな}行 ^{おこな}い ^{おこな}に ^{おこな}よ ^{おこな}っ ^てて、^{おお}多 ^{つみ}く ^{おお}の ^{おお}罪 ^{おお}を ^{おお}犯 ^{おお}し ^{おお}て ^{おお}い ^{おお}る ^{おお}こ ^{おお}と ^{おお}を ^{おお}懺 ^{おお}悔 ^{おお}し ^{おお}ま ^{おお}す ^{おお}。 ^{おお}神 ^{おお}よ、
^{おお}ど ^{おお}う ^{おお}か ^{おお}わ ^{おお}た ^{おお}し ^{おお}た ^{おお}ち ^{おお}を ^{おお}憐 ^{おお}れ ^{おお}み ^{おお}赦 ^{おお}し ^{おお}て ^{おお}く ^{おお}だ ^{おお}さ ^{おお}い ^{おお}。 ^{おお}師 ^{おお}父 ^{おお}よ、
^{おお}わ ^{おお}た ^{おお}し ^{おお}た ^{おお}ち ^{おお}の ^{おお}た ^{おお}め ^{おお}に ^{おお}主 ^{おお}なる ^{おお}神 ^{おお}に ^{おお}祈 ^{おお}っ ^てて ^{おお}く ^{おお}だ ^{おお}さ ^{おお}い

次の言葉は主教臨席のときには、主教が言う。

司祭 ぜんのう かみ みな あわ つみ ゆる めぐ
全能の神が皆さんを憐れみ、すべての罪を赦し、恵み
ちから あた こころ あたら しょうがい おく
と力を与え、み心にかなう新しい生涯を送らせ
てくださいますように

会衆 **アーメン**

一同立つ。

せい さん
聖 餐

へいわ あいさつ
平和の挨拶

司祭 しゅ へいわ みな
主の平和が皆さんとともに

会衆 **また、あなたとともに**

司祭 へいわ あいさつ か
平和の挨拶を交わしましょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

ほう けん
奉 献

ここで次の言葉を歌いまたは唱える。

執事または司祭 み名^なにふさわしい栄光^{えいこう}を主^{しゅ}に帰^きし、^{そな} 供え物^{もの}
を^{ささ} 献^さげましよう

ここで奉献唱（188 ページ以下）、または当日の旧約聖書、使徒書、福音書の中から適当な言葉を用いてもよい。あるいは聖歌を歌ってもよい。

信施はここで集め、会衆の代表者は、パンとぶどう酒および信施を司祭に渡す。司祭はこれを供えるとき、次の祈りを用いる。会衆の言葉は歌ってもよい。

信施を集めないときは、「 」内の言葉を省く。

司祭 全能^{ぜんのう}の父^{ちち}なる神^{かみ}よ、この「信施^{しんせ}」供え物^{そな}を受け、主^{しゅ}の
み業^{わざ}のために用^{もち}いてください

会衆 すべて^{もの}の物^{しゅ}は主^{たまもの}の賜物^{しゅ}。わたしたちは主^{しゅ}から受^うけて
主^{しゅ}に^{ささ} 献^さげたのです アーメン

会衆はひざまずく。

かんしゃせいべつ
感謝聖別

次の二つの感謝聖別文のうちの一つを用いる。

[I]

司祭 主^{しゅ}は皆^{みな}さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司祭 ^{こころ かみ} 心を神に

会衆 ^{しゅ こころ ささ} 主に心を献げます

司祭 ^{しゅ かみ かんしゃ} 主なる神に感謝しましょう

会衆 ^{かんしゃ さんび} 感謝と賛美はわたしたちの務めです

司祭 ^{せい ちち えいえん ぜんのう かみ} 聖なる父、永遠にいます全能の神よ、いどこにお

いても、み子イエス・キリストによって、主^{しゅ かんしゃ}に感謝し、
主^{しゅ さんび}を賛美するのは、正^{ただ}しく喜^{よろこ}ばしいことです。

み子^こは、父^{ちち}の生^いきたみ言^{ことば}葉^はです。父^{ちち}はみ子^こによって永^{えい}
遠^{えん}の初^{はじ}めから万^{ばん}物^{ぶつ}を造^{つく}り、みかたち^にに似^にせてわたし
たちを造^{つく}られました。

父^{ちち}は、み子^こを人^{ひと}として生^うまれさせ、十^{じゅう}字^{じか}架^かの死^しと復^{ふっ}活^{かつ}
によって、わたしたちを罪^{つみ}の鎖^{くさり}から解^{かい}放^{ほう}し、み子^こを
ご自^じ身^{しん}の右^{みぎ}に挙^あげられました。

そして聖^{せい}霊^{れい}を送^{おく}り、わたしたちを神^{かみ}の民^{たみ}としてみ前^{まえ}
に立^たたせ、主^{しゅ}の祭^{さい}司^しとして主^{しゅ}とすべ^{ひと}ての人^{ひと}びとに仕^{つか}
えさせてくださいます。

特別叙唱（188 ページ以下）はここで用いる。

ゆえにわたしたちは、み使^{つか}いとみ使^{つか}いの頭^{かしら}および天^{てん}
の全^{ぜん}会^{かい}衆^{しゅう}とともに、主^{しゅ}の尊^{とう}いみ名^なをあがめ、常^{つね}に主^{しゅ}
をたたえて歌^{うた}います

一同次の言葉を歌いまたは唱える。

せいなるかな、せいなるかな、せいなるかな、ばんぐんかみ
主の栄光は天地に満つ

いと高きところにホサナ

続いて一同次の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

ほめたたえよ、主のみ名によって来られる方を

いと高きところにホサナ

司祭 天の父よ、救い主、み子イエス・キリストによって
わたしたちの感謝・賛美をお受けください。わたし
たちはみ子の模範にならい、そのみ定めに従ってこ
の聖奠を行います。どうかみ言葉と聖霊により、主
の賜物であるこのパンとぶどう酒を祝し、聖として、
わたしたちのためにみ子の尊い体と血にしてください。
主イエスは渡される夜、パンを取り、感謝してこれ
を裂き、弟子たちに与えて言われました。「取って食
べなさい。これはあなたがたのために与えるわたし
の体です。わたしを記念するため、このように行い
なさい」
また食事の後、杯を取り、感謝して彼らに与えて言
われました。「皆この杯から飲みなさい、これは罪
の赦しを得させるようにと、あなたがたおよび多く

ひと の人のためにながすわたしのあたらしいけいやくのちの血です。飲
むたびにわたしのきねん記念としてこのようにおこなに行いなさい

一同 キリストは死に

キリストはよみがえり

キリストは再び来られます

司祭 てん ちち 天の父よ、わたしたちはこのパンとこのさかずき 杯によつ
て、み子がただひとたびささげられたじゅうじか 十字架のぎせい 犠牲を
きねん 記念し、えいこう 栄光あるふっかつ 復活、しょうてん 昇天をせんげん 宣言し、み子が再び
来られるまでこのまつおこな 祭りを行います。

どうかこのかんしゃ 感謝・さんび 賛美のいけにえをてん さいだん いた 天の祭壇に至ら
せ、だいさいし 大祭司であるみ子によってお受けください。み前
でこのせいなるたまもの賜物にあずかるとき、わたしたちを
せいれい 聖霊によってあら 新たにし、しゅ 主のあい 愛によってい 生かし、み子
イエス・キリストのからだ 体であるきょうかい 教会のうちにむす 結び合わ
せ、てん ぜんかいしゅう 天の全会衆とともにみなをながめさせてくださ
い

一同 わたしたちのうちに はたら ちから 働く力によって、わたしたち
がもと おも 求めまた思うところのいっさい 一切を、はるかにこ 越えてか
なえてくださることができる方に、かた 教会により、ま

たキリスト・イエスによって、^{えいこう}栄光が^よ世々に^{かぎ}限りなくありますように アーメン

ここでしばらく黙祷してもよい。

ここから 180 ページ陪餐に続く。

〔Ⅱ〕

司祭 ^{しゅ}主は^{みな}皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司祭 ^{こころ}心を^{かみ}神に

会衆 ^{しゅ}主に^{こころ}心を^{ささ}献げます

司祭 ^{しゅ}主なる^{かみ}神に^{かんしゃ}感謝しましょう

会衆 ^{かんしゃ}感謝と^{さんび}賛美はわたしたちの^{つと}務めです

司祭 ^{ちち}父よ、わたしたちは、あなたの^{あい}愛される^こみ子イエス・キリストによって^{しゅ}主に^{かんしゃ}感謝を^{ささ}献げます。

あなたはこの^お終わりの^{とき}時に、^こみ子を^{すく}救い^{ぬし}主、^{あがな}贖い^{ぬし}主、
また^{むね}み旨の^{ししや}使者としてこの^よ世にお^{つか}遣わしになりました。
み子は、^こ父と^{ちち}一体の^い生きた^{ことば}み言葉です。父は^{ちち}み言
^ば葉によって^{ばんぶつ}万物を^{つく}造りこれを^よ良いものとされました。

^{ちち}父は^こみ子を^{てん}天から^{たい}おとめ^{つか}マリヤの^う胎にお^{つか}遣わしになり、
^{たいない}胎内で^{にくたい}肉体を^{そな}備え、^{せいれい}聖霊とおとめから^う生まれた
あなたの^こみ子として^{あらわ}現されました。み子は^{むね}み旨を
^{じょうじゆ}成就して^{ちち}父のために^{せい}聖なる^{たみ}民を^{ととの}整え、^{ちち}父に^{しんらい}信頼す

ものくるる者^{もの}を苦し^{くる}しみから解^とき放^{はな}つために、み手^てを広^{ひろ}げて苦し^{くる}
しみをしの^{しの}忍^しび、死^{しほろ}を滅^{あくま}ぼし、悪^{あくま}魔^まのかせを打^うち破^{やぶ}り、新^{あたら}
しい命^{いのち}に復^{ふっかつ}活^{かつ}して勝^{しょうり}利^りを現^{あらわ}されました

特別叙唱（188 ページ以下）はここで用いる。

ゆえにわたしたちは、み使^{つか}いとみ使^{つか}いの頭^{かしら}および天^{てん}
の全^{ぜん}会^{かい}衆^{しゅう}とともに、主^{しゅ}の尊^{とうと}いみ名^なをあがめ、常^{つね}に主^{しゅ}
をたたえて歌^{うた}います

一同次の言葉を歌いまたは唱える。

聖^{せい}なるかな、聖^{せい}なるかな、聖^{せい}なるかな、万^{ばん}軍^{ぐん}の神^{かみ}、
主^{しゅ}の栄^{えい}光^{こう}は天^{てん}地^ちに満^みつ

いと高^{たか}きところにホサナ

続いて一同次の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

ほめたたえよ、主^{しゅ}のみ名^なによって来^こられる方^{かた}を

いと高^{たか}きところにホサナ

司^し祭^{さい} まこと^{まこと}に尊^{とうと}い、すべての聖^{せい}なるもの^{みなもと}の源^{ちち}である父^{ちち}
よ、あなたの賜^{たまもの}物^{もの}であるこのパンとぶどう酒^{しゅ}の^{うえ}上^{うへ}に
聖^{せい}霊^{れい}を送^{おく}り、これをわたしたちのためにみ子^こイエ^{イエ}
ス・キリストの体^{からだ}と血^ちにしてください。

主^{しゅ}イエスは、進^{すす}んで引^ひき受^うけられた苦し^{くる}みに身^みを渡^{わた}
されることになったとき、パン^とを取り、感^{かん}謝^{しゃ}してこ

れを裂き、弟子たちに与えて言われました。「取って食べなさい。これはあなたがたのために与えるわたしの体です。わたしを記念するため、このように行いなさい」

また食事の後、杯を取り、感謝して彼らに与えて言われました。「皆この杯から飲みなさい、これは罪の赦しを得させるようにと、あなたがたおよび多くの人のために流すわたしの新しい契約の血です。飲むたびにわたしの記念としてこのように行いなさい」

一同 キリストは死に

キリストはよみがえり

キリストは再び来られます

司祭 父よ、わたしたちは今、み子、主イエス・キリストの死と復活、昇天を記念し、わたしたちを、み前に立たせ、祭司として仕えさせてくださることを感謝し、このパンと杯を献げます。わたしたちがあなたの聖なる賜物にあずかるとき、聖霊を降し、世にある者も世を去った者も、すべての人を一つの体とし、聖霊を満たしてください。わたしたちの信仰が真理のうちに強められ、すべての聖徒とともにみ子

イエス・キリストによって主を^{しゆ きんび}賛美し、ほめたたえることができますように。

一同 ^{えいこう ほま}栄光と^{せい}誉れは、^{きょうかい まじ}聖なる^{なか}教会の^{せいれい}交わりの中で、^{ぜんのう}聖霊と^{ちち}ともにいます^{かみ}全能の^{しゆ}父なる神に、主キリストによって、^{いま}今も、^{よよ}世々に^{かぎ}限りなくありますように。アーメン
ここでしばらく黙祷してもよい。

ばい さん
陪 餐

司祭は次の言葉を歌いまたは唱える。

司祭 ^{すく むし}救い主^{おし}キリストが^{いの}教えられたように^{いの}祈りましょう

一同主の祈りを歌いまたは唱える。

^{てん}天におられるわたしたちの^{ちち}父よ、

^なみ名が^{せい}聖とされますように。

^{くに}み国が^ききますように。

^{こころ}み心^{てん}が天に^{おこな}行われると^ちおり、^{おこな}地にも^ち行われますように。

わたしたちの^ひ日ごとの^{かて}糧を^{きょう}今日も^{あた}お与えください。

わたしたちの^{つみ}罪をおゆるしくください。わたしたちも^{ひと}人をゆるします。

わたしたちを^{ゆうわく}誘惑におちいらせず、

^{あく}悪から^{すく}お救いください

続いて一同次の言葉を歌いまたは唱える。

^{くに}国と^{ちから}力と^{えいこう}栄光は、^{えいえん}永遠にあなたのものです アーメン

司祭はパンを裂く。そのとき、次のように言う。

司祭 わたしたちがパンを裂くとき

会衆 キリストの体にあずかります (I コリント 10:16)

司祭 パンが一つであるから

会衆 わたしたちは多くいても、一つの体です

(I コリント 10:17)

一同次の祈りを唱えてもよい。

憐れみ深い主よ、わたしたちは自分のいさおに頼らず、ただ主の憐れみを信じてみ机のもとに参りました。わたしたちは、み机から落ちるくずを捨てるにも足りない者ですが、主は変わることなく常に養ってくださいます。恵み深い主よ、どうかわたしたちが、み子イエス・キリストの肉を食し、その血を飲み、罪あるわたしたちの体と魂が、キリストの尊い体と血によって清められ、わたしたちは常にキリストにおり、キリストは常にわたしたちにおられますように アーメン

続いて一同次の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

よ つみ のぞ かみ こ ひつじ あわ 憐れみをお与えください

よ つみ のぞ かみ こ ひつじ あわ 憐れみをお与えください

よ つみ のぞ かみ こ ひつじ しゅ へいあん 主の平安をお与えください

司祭とほかの受聖餐者は陪餐する。分餐のとき、おのおのに
次のように言い、陪餐者は「アーメン」と言う。

あなたのために^{あた}与えられた^{しゅ}主イエス・キリストの^{からだ}体

アーメン

あなたのために^{なが}流された^{しゅ}主イエス・キリストの^ち血

アーメン

陪餐のときに、陪餐唱または聖歌を用いてもよい。当日の旧約聖書・使徒書・福音書の中の適当な言葉を陪餐唱として用いてもよい。

聖品が尽きたときは、再度の感謝聖別(186頁以下)の式文を用い、残ったときは、その場で慎んで飲食してしまう。続いて司祭は言う。

司祭 ^{いの}祈りましょう

一同次の祈りを唱える。

永遠^{えいえん}にいます全能^{ぜんのう}の神^{かみ}よ、この^{せいいてん}聖奠にあずかった^{もの}者を、み子^こ
イエス・キリストの^{とうと}尊い^{からだ}体と^ち血をもって、^{やしな}養ってください
ることを感謝^{かんしゃ}します。主^{しゅ}はこれによって、わたしたちがみ子^こ
の^{からだ}体のえだであり、み国^{くに}の^{よつ}世継ぎであることをいよいよ明^{あき}
らかにしてくださいました。天^{てん}の父^{ちち}よ、わたしたちはみ子^こ
によって、心^{こころ}も^{からだ}体も^い生きた^{そな}供え物として^{もの}献^{ささ}げます。どうか、

せいれい によつてわたしたちをこのよに^よつ^{つか}かわし、み^{むね}お^{おこな}もの
とならせてください。えいこうはよよ^{えいこう}に^よか^{かぎ}りなく、ちち^{ちち}とこ^ことせいれい^{せいれい}
にありますように アーメン

司祭(主教臨席のときは主教)は次の言葉を用いて会衆を祝福
する。

ちち^{ちち}とこ^ことせいれい^{せいれい}なるぜん^{ぜんのう}のう^{かみ}の^{めぐ}神の^{つね}恵^{みな}みが、常に皆さんとともに
ありますように アーメン

一同立って次の唱和を用いる。

執事または司祭 ハレルヤ、主^{しゅ}とともに^い行きましよう
会衆 ハレルヤ、主^{しゅ}のみ^な名^なによつて アーメン

祝福の前に一般用または期節用の言葉（184 ページ以下）を
言ってもよい。